

伊豆大島富士見觀音堂

海外開拓移住先亡者の菩提を祈る



伊豆大島富士見觀音堂 堂祖 略歴

藤川 辰雄 (法名:真弘)

大正5年(1916年)7月25日 山口県にて出生。

昭和11年3月 山口師範学校本科1部卒(現山口大学教育学部)

日本、中国にて教職

昭和20年8月 天津にて終戦

昭和22年4月 山口県厚狭町議会議員に当選。

昭和32年9月 山口県山陽町議会議員に当選、執筆活動。

昭和37年(1962年)7月 日本海外移住家族会連合会 専務理事、事務局長就任。

昭和40年8月～12月 南米移住地視察 「南米の日系コロニア第1集」

昭和43年10月 海外移住議員連盟(昭和50年に中南米国議員連盟と改称)事務局長兼任。

昭和45年8月～12月 南米移住地視察 「南米の日系コロニア第2集」

昭和48年11月 高野山にて、得度受戒 仏門にはいる。

昭和49年8月～12月 ブラジル日系人無縁仏実態調査 「南米の日系コロニア第3集」

昭和53年(1978年)8月 日本海外移住家族会連合会 専務理事、事務局長 退任。
中南米国議員連盟事務局長 退任。

昭和53年(1978年)8月 海外開拓移住者菩提・富士見觀音堂 建立。

昭和55年(1980年)6月 歌集 菩提心 出版

昭和60年(1985年)3月 歌文集 留魂祿 出版

昭和61年(1986年) サンパウロ州スザノ市 真言宗 金剛寺に「ブラジル富士見觀音」建立

昭和61年(1986年)9月 9月20日、ピラアマゾニアにて消息不明、死亡と確認。

ブラジルのコメントドール

昭和44年5月 オルデン・アカデミア・デ・サンフランシスコ章

昭和45年8月 コート・マガリエンス章

昭和49年11月 ペドロ・アルパレス・ガブラン章

伊豆大島富士見観音堂の経緯

伊豆大島富士見観音堂は、初代日本海外移住家族会連合会(海家連)の事務局長 藤川辰雄氏が昭和53年(1978年)に、同会を退職後、自らの資材を当時伊豆大島に建立した施設であります。

日本海外移住家族連合会(海家連)は昭和37年(1962年)に設立され、海外に移住して困った人、恵まれない人達へ母国からいろいろと面倒を見る仕事を行ってきました。

南米への日本移住者の実態視察は、市の在任中3回にわたって行われました。しかし、そこには成功者ばかりでなく、志半ばに病気や事故で倒れる移住者も多く存在した事、とりわけ戦前のアマゾン開拓に関わった先亡者にあっては墓も不明になり、弔う者もなく密林の中に遺骨が埋もれていく実態に藤川氏は非常に心を痛めました。

昭和50年(1975年)8月には、サンパウロ市に無縁仏慰靈碑が努力の末に公式に国費で建立されましたが、それに先立ち昭和48年(1973年)に高野山にて出家いたしました。

職業職務を超えた人生の事業としての使命感もって勤める覚悟を固めたものと考えます。

昭和53年(1978年)に会を退職するも、海外開拓移住先亡者の菩提を祈る勤めは終わることなく、伊豆大島に資材を投じて富士見観音堂を建立し、同年10月15日に富士見観音を開眼いたしました。

昭和61年(1986年)大島に建立した富士見観音堂に自給自足の仙人のような生活から、藤川氏は最後の巡礼の旅にたちます。

同年、7月25日にサンパウロ州スザノ市金剛寺に妹と言える「南米日系人無縁仏菩提ブラジル富士見観音」を建立、開眼いたしました。

その後も約3ヶ月ブラジル各地を巡礼し、10月20日にアマゾナス州ピラアマゾニアにて藤川氏は鬼籍となりました。

藤川氏は、昭和44年(1979年)7月4日のサンパウロ新聞において、観音堂建立時の苦労話で、このように語っております。

「海外移住者の問題は票とつながらないため、これに取り組む国会議員はきわめてすくない。」

「募金活動は意外にも理解する人が少なく私の先輩、親友たちまでも「君は気でも狂ったのか、そんなことはやめてしまえ」と忠告するしまつで、建立のために富士見観音堂奉賛会を設立、衆議院議員三宅正一氏、長谷川正三代議士、多数の都道府県家族会、海外海外進出企業1社のご協力を得る事ができました。しかし、その浄財も募金計画の1割しかならず、土地、建物に関しては私財を投じ建立を見るに至った次第であります。」

また、富士見観音は、死者への供養と共に生ける人の心の目を呼びさまし、日本の未来へ向けての意味もあると語ります。

「日本の国際時代の原点は、日本移民が命がけで築き上げてきた偉大な「信用」であります。」

「進出企業も「海外に開拓の道を切り拓いたあなた方の信用を傷つけないようにがんばります」と誓うぐらいの心構えがほしいし、一般国民にも無関心であってはならない。」

この言葉を、全ての方々が真摯に受けとめる事によって、日本の将来の大きな財産となることでしょう。

藤川師亡きあと、細君の和子さんは一人で観音堂をお守りしていましたが、1994年に他界しました。その後、アマゾン生活経験者でもある写真家・作家の佐々木美智子さんが御堂をお守りしました。女手で高齢での奉仕を助けるべく、年に数度、日伯交流協会の研修生OBのボランティアの方々の手により草刈や修繕などが行われてきました。しかし、佐々木女史も体調不調のために本土での生活を余儀なくされました。

富士見観音堂の下部にある石碑文「富士見観音の心」

「わが国の海外移住は、明治元年のハワイ移民からはじまり、いまや海外日系人150万といわれ、その二世、三世は政治経済、学術文化等あらゆる分野に大きく活躍し、日本の信用を高めており、それが日本の海外発展に重要な役割りを果たしております。その日系人繁栄の基礎を築いた一世達の苦闘は言語に絶し、しかも日本に錦を着て帰ることが唯一の目的であったのが、一度も帰国できず、まったく報いられる事もなく海外に没した気の毒な人たちが多く、わけても無縁仏の実態には断腸の思いがいたします。

日本海外移住家族会連合会の藤川事務局長は、同連合会が昭和37年に創立されてから海外日系人援護一筋に16年の苦闘をへて、海外移住者の苦難の心を心として仏門に入りました。そして開拓者が夢にまで見て果たせなかつた帰国の望みをかなえる意味において

日本の象徴たる富士山の見える場所に観音堂を建立し、それら先亡者の靈を招きその菩提を祈るために余命を捧げる事を発願いたしました。その藤川眞弘師に、日本の海外開拓移民第一号の北米ハワイ島と姉妹都市、東京都大島町の富士山の見える地を靈地と定め私財を投じて土地建物を建造すると共に

日本海外移住家族会連合会の会員を中心、「富士見観音堂捧贊会」を設立し、国内外から多くの方々の浄財によって、この観音様を寄進したものであります。

どうぞ、海外開拓移住先亡者ここに来て安らぎたまえ と祈願する私共の微喪にご協賛くださるようにお願い申し上げます。

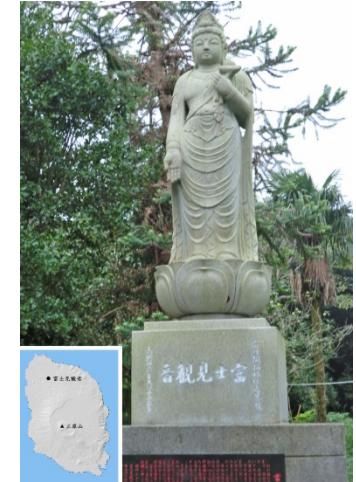
昭和33年8月吉日建立

富士見観音堂奉贊会 会長 三宅正一

日本海外移住家族会連合会 会長 田中龍夫

いまもなお 鬼哭の声が耳につき我が巡礼の旅は終わらじ

昭和50年 ブラジルにて 真弘」



伊豆大島富士見観音堂の今後の課題

私が、最初にこの観音堂を知ったのは、ブラジル移民の映像作家 岡村 淳監督の大作「アマゾンの読経」であります。いま改めて考えると、藤川氏が入水する時期は、私自身がブラジル、パラ州ベレン市に住居を構え移住を決意し、すでに2人の子を生んでいた現地女性と結婚届を提出した年であったと記憶します。今となれば不思議な因縁を感じます。

さて、藤川師の死後、この30年の間に師も思いもよらない事態が起こっております。ブラジルからの「出稼ぎ」です。私が、この2年間の観音堂での勤めで、日本に出稼ぎに行った父が行方不明と私を頼ってきた2世と共に観音堂へ、祈りにいった事。また、進出日本企業の社員とブラジル人女性との間で出来た3兄弟、父の死亡を知り来日、しかしその父には正妻と異母兄弟があり、墓参希望を拒否されなくなく大島富士見観音堂にて、慰靈をした事。(なんと、祈り後、父の墓前に皆、行けるようになりました。合掌)などなどです。

言語の問題、日本における教育の問題、いわれのない差別。最近では派遣会社の寮で、25年前に日本に母と共に幼い頃にきた3世が、その母の遺骨と共に暮らす事などという事象も出てきており、心を痛めております。伊豆大島富士見観音堂は、海外開拓移住先亡者の菩提をお祈りするに留まらず、母国である日本で、その末裔を無縁仏にしないためのお勤めも出てきているのです。

私は、藤川師の思いの1つであった「菩提を祈る道場」として、若者が集まる事の出来る「場」作りを少しずつ進めて行きたいと考えております。

家屋の補修、浄化槽の設置など、色々と課題は、山済みであります。稚作ながらも漆のお札を作成しながら、それをもって、浄財とさせていただき、お勤めさせていただいております。

南無大慈悲観世音菩薩

寸心言不尽

観音堂 堂守

伊藤修真

平成28年(2016年)9月17日、18日 富士見観音堂

